総合的な学習部報
# そうがく
（No. ５０）
27.7.10 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集

## シンガポールの先生方と

総合的な学習部長
金指　由香里

「子供たちが自分の意見に自信をもち堂々と発言し、友達の意見を真剣に聞き合う様子に、とても感心しました」

これは、本校の授業研究会に参加されたシンガポールの先生から出されたご意見です。六月十五日、名古屋大学の久野弘幸先生、国立教育政策研究所の千々布敏弥先生方が中心となり、ＷＡＬＳ（国際授業研究学会）のプログラムで、シンガポールの小中高校・特別支援学校・大学から三十一名の先生方が来日されました。シンガポールは、面積が東京二十三区と同じくらいの国ですが、アジアの交通や流通の要所として発展し、人材育成と教育に力を入れています。そこで今回、学力調査トップクラスの福井県の教育視察のために、来日されました。しかし、福井では総合的な学習の時間の授業公開がなく、本校の総合的な学習の時間の授業参観とその後の授業研究協議会が計画されたのです。まず、全学級の生活科と総合的な学習の時間の授業公開をしました。さすがプロの先生方。子供たちの発言やノート、教師の発問や板書、さらには教室掲示まで、熱心に観察やメモをし、廊下に出れば質問攻めです。その後、六年生が「ハートフルタウンプロジェクト」の特設授業を行いました。「地域の人が進んで交流できる場を増やすと、災害があった時に助け合うことができる」「おばあちゃんから聞いたけど、老人会でもどんどん声を掛け合うようにして仲良くなっているそうです」…地域の様々な人の町に対する思いと自分たちの思いを重ね合わせ、夢中になって話し合う子供たち。この授業は、久野先生が発信機から英語で同時通訳し、シンガポールの先生方も受信機で内容を知ることができました。午後の授業研究協議会も同じように同時通訳で進められました。「この課題は、もう少し時間をかけないと難しいのではないか」「今後の追究はどうなるのか」等の鋭い質問も出ました。シンガポールの先生方は「総合的な学習」をどのように評価されたのでしょうか。その点での議論ができなかったことが残念でした。最後に、代表のリー先生からは「子供一人一人の意見を大切にし、考える子供を待つ先生の姿に学ばせてもらいました。教えることと考えさせることの両立が重要ですね」と言われました。

今回訪問団に同行された国研の千々布先生は「思考力・判断力・表現力を育成する授業の創造は校内研究体制に委ねられているものが多い。…その戦略を考えさせるキーワードとしてアクティブ・ラーニングという言葉は優れている。」と「教育新聞」で述べています。本年度も総合的な学習部では『自ら探究し、共に学び合う総合的な学習の授業』を研究主題に掲げ取り組んでいます。各学校で様々な実践や研究が展開されることでしょう。アクティブ・ラーニング＝「能動的に学ぶ」「学び合う」ことについて、具体的な子供の姿を通して明らかにしていきたいものです。

## 本年度の研究方針

生活・総合指導員　矢作中学校　高沢　秀昭

■研究主題
『自ら探究し、共に学び合う総合的な学習の授業』

■研究の重点
・子供たちが、学びの中で感動を得られる授業展開を工夫する。
・体験や問題解決的な活動を繰り返す探究的な学習を通す。
・協同的な学びが実現できるよう、多様な学習集団や学習形態を工夫する。
・地域との連携を図り、地域の「人・もの・こと」を積極的に活用する。
・児童生徒に、自分のよさや成長を自覚させ、さらに伸ばしていけるような評価規準の設定や評価方法を工夫する。

■「岡崎の三本柱」の担い手は、総合！

昨年度は「国連ＥＳＤの十年」として、十一月にＥＳＤユネスコ世界会議やユネスコスクール世界大会が名古屋などで開かれました。ユネスコスクールとして参加していた市内の学校の子供たちが、県内他校の友達と楽しく関わり合いながら、テーマについての考えを深め、ＥＳＤの視点から重視する能力や態度を育んでいる姿が見られました。

今年度は、これまで積み上げてきたＥＳＤの実践と成果を受け継ぎ、さらなる定着や深化を図っていきたいと考えます。「ＥＳＤナビ」、「学校で環境教室」などを活用したり、「家康公顕彰四百年」「市制百周年」に関連した実践を展開したりする中で、感動のある体験や出会いによって思いを高め、地域の「人・もの・こと」に関わりながら探究的で協同的な学びを創造し、「岡崎の三本柱」を力強く推進していきたいと思います。

# 夏の研修案内

**★授業力アップセミナー　～基礎編～**

日時　平成二十七年七月三十日(木)　九時～十二時
場所　総合学習センター　小ホール
内容　・実践発表　北中　廣瀬浩司先生
「二十年後の城北は大丈夫なのか？」
～学区を商業・観光の視点から探り、今後を考える～
・学年別フリートーク
・名古屋大学　久野弘幸先生による講話
「総合学習の二十年を振り返り、これからの十年を展望する」

今年度は、総合的な学習がスタートしてからの二十年間を振り返り、今後の展望について研修を行います。また、学年別フリートークでは、各校の実践状況と、問題点などを話し合い、今後の実践に役立ててください。

**★三教研夏季研修会**

日時　平成二十七年八月四日(火)
場所　甲山会館
内容　講演
鳴門教育大学大学院
言語系コース(国語)教授　余郷裕次先生
「絵本のひみつ
―絵本の知と読み聞かせの心―」

講演後、テーマ別の分科会において、小豆坂小の橋本椋太先生が、実践発表されます。他にも三河各地域の優秀な実践が報告されます。ぜひご参加ください。

**★岡崎市教育研究大会**

日時　平成二十七年九月二日(水)十三時四十五分～
場所　矢作市民センター　体育集会室

先日提出された中間報告では、各学校の特色を生かした熱意ある実践が期待されるものが多くありました。今年度も鳴門教育大学教授の西村公孝先生を助言者としてお迎えし、ご指導をいただける予定です。多数のレポート提出と積極的なご参加をお待ちしています。

# 研究・研修報告

生活・総合指導員　矢作中学校　高沢　秀昭

六月二十日（土）・二十一日（日）福岡市で行われた第二十四回日本生活科・総合的学習教育学会に参加しました。二十日の午前中は、福岡市内の小・中学校及び幼稚園で、公開授業・保育とそれをもとにした研究協議会が行われました。午後の自由研究発表では、元形埜小校長の荻野嘉美先生が大雨河小での実践を発表され、岡崎の実践の確かさが評価されました。

その後の課題別研究発表では、「小・中で育った探究の力を高校でさらに伸ばす　文科大臣諮問から考えるこれからの総合学習」分科会に参加しました。そこでは、高等学校における総合的な学習の時間を核にした特色ある学校づくりとして、ＳＧＨ校とアクティブ・ラーニング校の実践発表が行われました。小学校・中学校の総合学習で育った力が、高等学校においてどのようにつながっているのか、また、小学校・中学校で育った力が、高等学校でどのように伸びていくのかについて、実例をもとに明らかにされました。

二十一日は、「我が国がめざすこれからの義務教育の方向性と課題」と題し、シンポジウムが行われました。前川喜平先生（文部科学省　文部科学審議官）の基調講演では、次の学習指導要領の改訂に向けて、実社会・地域との関わりを通してどのような子供を育てるのか、その中で教師がどのような役割を担うのかを考えていかなければならないこと、小中一貫教育が生活・総合にプラスに働くことなどを話されました。

その後のシンポジウムでも、「アクティブ・ラーニング」の導入を念頭に置き、子供たちが主体となった能動的な学びが必要であることが確認されました。

これからますます、能動的に学びを作り上げていく、総合的な学習の時間の果たす役割が大きくなることを再認識できた大会となりました。

# 岡崎総合的な学習研究会の活動報告

生活・総合指導員　矢作中学校　高沢　秀昭

六月二十四日（水）十八時三十分より、「岡崎自然体験の森」において岡崎総合的な学習研究会＆生活科道場が開かれました。岡崎市役所道路維持課課長の秋元さんと岡崎市役所自然共生課の山之内さんを講師に招いて『身近な自然を活用した学習コーディネート手法を学ぶ』をテーマに学習会を行いました。

最初に、「身近な自然」という言葉の意味について話し合いました。秋元さんからは、「名所に咲く花は知っているけど、自分の家の庭に咲く花の名前は案外知らないでしょう。そのように、目の前にありながら理解されていない物を見えるようにするのが身近な自然です。」と分かりやすく説明いただきました。自分のそばにあるからと言っても必ずしも身近ではないことを感じ、生活・総合の学びで地域の素材を活用する意義や価値を再確認できました。その後、グループに分かれて、湿地や池、川にすむ生き物の保護を念頭に置いたまちづくりを考える活動を行いました。ホタルの苦手な光を遮る工夫、家や工場から出る排水に目を向けるなど、ホタルのためだけでなく、そこにすむ全ての生き物たちのことを考えた開発に取り組んでいかなければいけないことを学びました。

最後はビオトープを飛び交うヘイケボタルの観察を行い、参加していただいた先生方と自然の中に広がる幻想的な風景を堪能することができました。自然と共生する大切さやすばらしさを学んだ学習会でした。